



◇ 我慢しない暮らし ◇

「氷点下が続く北海道ならともかく高断熱高気密は過剰スペック」だとする本州の方々の意見があります。「全館暖房や全館冷房は光熱費が無駄」「住宅内の温度差は子供の鍛錬になって、モヤシっ子になる事を防ぐ」との声もありますが、結果として寒い家に住む子供の気管支喘息の疾患率が高くなっております。

北海道の人が本州に行くとき断熱材が入っていないため、家の中がとてつもなく寒く、陽のあるときは外にいる方が温かく感じる時さえあります。

断熱気密性能のない家では、いくら暖房をしても隙間から暖気が逃げ、冷気と入れ替わってしまいます。外皮に面した壁の温度は、外気温とあまり変わらないため、空気が冷やされ下降気流がおきます。

暖房機の稼働熱で頭上が熱く、足元が冷たい不快な住まい空間となってしまいます。暖房している部屋から寒い廊下を歩いてトイレに行くと、温度差によって、皮膚から体温の放散を減らそうと血管が縮み、血圧が急速に上がり、脳卒中の疾患の可能性が高くなります。

東京首都大学名誉教授の星旦二先生の研究に、寒い家に住む高齢者が脳疾患で、寝たきり状態で亡くなる確率が高くなるとの研究論文もあります。

寝たきりになってからは、当事者自身がもっとも悔やむことになるのです。健康で快適な家づくり。私達ファースグループは選ばれる事に自信があります。

(著・札幌事務所 中村文紀)

◇ オール電化住宅の衰退と気密性能 ◇

熱源確保の前に家の気密性能を

福島原発事故以降は、電気料金値上げにより「オール電化住宅は高くてダメ」との意見が相次ぐようになりました。

余っていた深夜電力活用の蓄熱暖房器や電気温水器を使用して暖房、給湯を行い、深夜帯電力の有効活用と発電効率向上と多くのメリットがあり、当然ながら電気料金を下げ、更に使用しやすくできる好循環の時代がありました。

3・11以後、多くの原発は停止し、深夜の余剰電力など無くなりました。民間企業である電力会社は、割引制度を廃止し、深夜電力の料金値上げも余儀なくされます。それで光熱費は、3倍にもなった家庭も少なくないようです。

オール電化住宅は、駄目だと言う意見が、一般ユーザーから、サブユーザーの工務店経営者にも広がりつつあります。

一時期は、オール電化住宅以外の家を建造させない造成地や、オール電化のモデルハウスだけのビルダーやハウスメーカーも多くありました。

最近では、オール電化ではなく、オールガス住宅と称する住宅展示場も増えていますが、そのガスを精製するにも多くの電力を使用することになります。

建築業者、一般ユーザー、熱源供給業者も再認識すべきことは、熱源に何を採用するかの前に、人の住む、家の断熱スペックを熟慮する必要があります。

気密性能こそ義務化に

どんな素晴らしい熱源があっても、それを使用する器が穴だらけのバケツのようであれば、エネルギーの垂れ流しの状態は必然となります。

3カ所も4カ所も穴の空いたバケツがあり、そのバケツに水を入れても満たす事など出来ません。水を満たすには、まず穴を塞ぐことが肝心です。

従来の家づくりは、断熱材の厚さ、断熱材の性能値ばかりが語られてきました。2009年から高性能住宅の定義から外された、気密性能「C値」の大切さを再認識し、むしろ断熱と同等の義務化も考慮すべきと思われます。

どんなに高性能の換気システムや空調機器、加湿器、PM2.5対策機器を設置しても、隙間の多い家では、その性能を発揮することができないのです。

今一度、業界全体で熱源を何にするかではなく、家の性能をしっかりと問えることが大切であり、そして真に快適な家はどんな家かを問い直す必要があると思われます。気密性能の向上は、とてつもなく手間が掛かり、均一な気密性能を担保できないなど、作り手の都合が優先されているようです。

幸太の知恵袋

アルミ鍋の黒ずみは、リンゴで取る

みずみずしいリンゴ、美味しいねえ。
食べた後に残ったリンゴの皮は、アルミ鍋の黒ずみを取るのにも使えるんだよ。アルミ鍋は、使っているとどうしても、底の方から黒ずんできちゃうよね。洗剤で洗っても、なかなか落ちないんだよね。
そんな時、リンゴの皮をね、水と一緒に黒ずんだアルミ鍋に入れて、グラグラと10分ほど煮立たせるんだよ。
黒ずみはキレイさっぱりなくなって、まるで新品のようになるよ。試してごらん。そうそう、リンゴには鎮静効果もあって、さわやかな香りは、におい消しにもなるんだよ。

建築情報や知識は、ファース本部オフィシャルサイトで!



ファースの家

検索

